

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年11月11日 評価結果市町村受理日 平成28年1月16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4370200521		
法人名	有限会社ティム		
事業所名	喫茶去		
所在地	熊本県八代市田中西町11-2		
自己評価作成日	平成27年11月11日	評価結果市町村受理日	平成28年1月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/43/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人九州評価機構
所在地	熊本県熊本市北区四方寄町426-4
訪問調査日	平成27年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>共に、日常を暮らす中で、お互い様の関わりを大切に考えています。 笑顔のある日常生活が目標です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>入居者5人がゆえのアットホームな繋がりがあり、職員の細やかな配慮のあるケアで「普通の暮らし」が送られている。職員は入居者一人ひとりにじっくりと向き合い、生活歴や性格を把握し、それぞれの思いを大事にすることで更に良い関係が築かれ、「笑み」が大事にされている。地域住民との付き合いも、気軽に訪問されたり、頂きもののやり取り等が普通の家の様に行われており、緊急時の協力体制が構築されている。地域のシルバー人材の活用も始まり、認知症の理解と啓発がなされ、ますます、地域との協力体制が強化されることが期待される。</p>
--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「分け隔てなく仲よくお茶を飲みましょう」この理念を共有し、実践に努力しています。	職員全員が自然体で、理念を念頭に置いたケアを行っており、生活にしっかりと根付いている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶や会話、利用者の美容、頂き物のやり取り等、普通のご近所づきあいをしています。	近所への散歩や挨拶、会話、美容院の利用等、地域の中での生活が日常的に営まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居とは関係なく、代表が相談を受けています。認知症の方との接し方や、病院受診についても助言をしています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	喫茶去の現状を伝え、地域との連携を確認し、サービス向上に活かすべきだと考えています。	現在運営推進会議の開催は諸事情により見合されているが、地域密着型事業所としてのの意義は啓発している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	信頼関係を構築し、サービスの質の向上に努めるべきだと考えています。	市担当者とは認定更新や書類提出の機会等に連絡、出向き、情報の提供・交換を行い、関係作りに取り組んでいる。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>言葉による身体拘束も含めて、職員で話し合い、実践に努力しています。外部研修後の職場内研修にも努め</p>	<p>職場内外研修に参加し、実践に生かしている。介護経験が浅い職員には、日常業務の中でも話し合いをしながらケアに取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録を職員が共有し実践や介護計画の見直しに活かしています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人のニーズに応えられるよう柔軟な対応に心がけています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域資源について情報を集め、一人ひとりの支援に役立てたいと思います。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望する、かかりつけ医との連携を取り、往診も含めた必要な医療が受けられるよう努めています。</p>	<p>入居者・家族の希望によるかかりつけ医との連携体制が整っている。家族がかかりつけ医の方もおられ、入居者の普段の状態報告を細かく行い、家族との話し合いの元、医療を受診できるように支援している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や</p>	<p>職場内の看護師の意見も取り入れ、介護に努めています。</p>		

		看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、安心して治療に専念できるように、情報交換、相談に応じています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期について、家族とよく話し合い、個々に対応しています。	入居時に重度化については入居者・家族に説明しており、その時が来たら希望を尊重し、かかりつけ医との連携の元、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生については、家族への連絡、救急車の要請など、実践力を身に付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難については、入居者も一緒に、職員で研修しています。	入居者と共に、年2回（夜間・昼間）の火災避難訓練を行っている。通報訓練、消火器を使って消火訓練も行っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしています。	入居者それぞれの人格を尊重し、生活歴や性格を考慮し、言葉掛けにも配慮している。排泄のトイレ誘導時は他の入居者に分からないように声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が日常生活の中で、安心して自己表現や自己決定ができるような環境づくりに努めています		

38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースに合った暮らしが支援できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの好みに合った身だしなみや、おしゃれができるように支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しい時間になるよう、好みや、できることを把握し、それぞれに支援しています。	入居者の好みや状態・季節により、地元の食材を利用した食事を提供している。職員も共に食卓を囲み、和やかな雰囲気のもと食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分量を頭において、食事やおやつへの支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれの状態に応じた口腔の清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、気持ちよく過ごせるよう支援しています。	入居者それぞれの生活習慣による排泄パターンを把握しており、その都度、それぞれの状況に応じた声かけやトイレへの排泄支援をしている。必要な入居者には排便コントロールをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については、それぞれの体調を見ながら、服薬も含めて予防に		

			努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は楽しい時間として過ごして頂けるよう、音楽も取り入れ支援しています。	入居者には希望に応じた入浴で、時間をゆったりと、楽しく過ごしてもらうための民謡などの音楽を利用する等、工夫しながら支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣の把握に努め、安心して休息したり、眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について、職員間で情報交換し理解を深め、服薬支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの好みや、やりたいことを把握し、役割、楽しみの支援をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの希望する場所に行けるよう、ドライブに出かけたり、家族と話し合い帰宅したりできるように努めています。	希望に沿った外出が出来る様、家族と話し合いながら支援している。近所への外出だけでなく、ドライブへの声掛け等、日常的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、本人の希望を尊重し、家族の理解の下、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族に電話を掛けたり、手紙を書いたりできるように支		

		よりに又返せしている	援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、季節の飾りなど、楽しくホッとできる空間作りに努めています。	供用の空間には季節感のある装飾を行い、それぞれお気に入りの場所もある。窓も多く陽当たりが良く、外の様子もうかがえる。換気や空調、湿度にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間に椅子を置いて、どこにでも座れるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心してくつろげる空間になるよう、本人、家族と話し合っって居室を整えています。	居室は家具や生活用品の殆どが入居者の持ち込みで、家族の思い出やそれまでの生活を思わせ、居心地の良い居室作りの支援がしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ安全に、安心して暮らせるよう、バリアフリーや手すり、椅子などを工夫しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

2 目 標 達 成 計 画

事業者名 喫 茶 去
 作成日 平成28年1月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	45	入浴に、声掛けから、着衣まで、お1人、90分以上かかる方がおられる。	ゆったりした気持ちで入浴して頂いての50分を目標とする。	どのタイミングの支援が、スムーズに動けることになるのか検討し、ご本人の気持の負担にならない方法を見つける。	6か月
2	4	運営推進会議の開催ができていない。	運営推進会議を開催する。	運営推進会議を開催する。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。